

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587024101	科目番号	05870241
授業科目名	●情報社会とコンピューティングII(問題解決のアルゴリズム)		
編集担当教員	野崎 剛一		
授業担当教員名(科目責任者)	野崎 剛一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	野崎 剛一		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-45(call3)		
対象学生(クラス等)	2年次(情報社会とコンピューティング)		
担当教員Eメールアドレス	nozaki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	情報メディア基盤センター2F		
担当教員TEL	095-819-2217		
担当教員オフィスアワー	月～水17:00～19:00		
授業の概要及び位置づけ	プログラムの文法や作法, データ構造, アルゴリズム設計や実装をとおして, 情報社会基盤の重要な要素であるプログラミング言語について学ぶ。プログラミング言語の機能を理解し, 演習を通じて実際に利用して, 簡単なプログラムの読解や作成ができるようにする。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング言語の文法や作法を理解できる。 ・プログラムを読解できる。 ・アルゴリズムにそってプログラムを作成できる。 		
授業方法(学習指導法)	授業は, 講義と演習を組み合わせで行う。講義内容の理解度を確認するために, 各自1台のコンピュータを使用して操作練習と課題を行う。さらに, 理解を深めるためにレポート課題も課す。		
授業内容	各回の内容は以下の通り計画しているが, 状況に応じ適宜変更等を行う場合がある。		
	回	内容	
	1	授業の進め方について, 授業支援ツール, プログラミング環境の準備	
	2	プログラミング入門(1)	
	3	プログラミング入門(2)	
	4	プログラミング入門(3)	
	5	プログラミング入門(4)	
	6	プログラミング入門(5)	
	7	アルゴリズム入門(1)	
	8	アルゴリズム入門(2)	
	9	アルゴリズム入門(3)	
10	アルゴリズム入門(4)		

	11	アルゴリズム入門(5)
	12	総合演習(1)
	13	総合演習(2)
	14	総合演習(3)
	15	まとめ
	16	定期試験
キーワード	アルゴリズム, プログラミング	
教科書・教材・参考書	授業支援システム (LACS : e-learningシステム) 上で提供	
成績評価の方法・基準等	授業中課題及び小テスト : 60%, 期末試験(または課題) : 40%	
受講要件 (履修条件)		
備考 (URL)	https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/	
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4						
開講期間									
必修選択	選択	単位数	2.0						
時間割コード	20140587024501	科目番号	05870245						
授業科目名	●情報社会とコンピューティングII(情報と社会)								
編集担当教員	丹羽 量久								
授業担当教員名(科目責任者)	丹羽 量久								
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丹羽 量久, 三根 真理子, 福澤 勝彦, 正田 備也								
科目分類	全学モジュールII科目								
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目						
教室	[教養G棟]G-38								
対象学生(クラス等)									
担当教員Eメールアドレス	k-niwa@nagasaki-u.ac.jp								
担当教員研究室	情報メディア基盤センター 2階								
担当教員TEL	095-819-2084								
担当教員オフィスアワー	木曜日 9:30~11:00								
授業の概要及び位置づけ	<p>実社会における「情報」について次の観点から考え、それぞれを理解し、説明できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学的視点から理論とその限界について学ぶ ・医療現場における活用事例 ・ソーシャル・メディアに関する技術的話題に触れる ・「情報」の表現・可視化について 								
授業到達目標	情報システムの社会での利用事例を理解し、位置づけを説明できる。								
授業方法(学習指導法)	<p>主に講義形式で授業を行う。 各回の授業では、随時、受講者の考えについて問いかけ、その集計結果等を授業にフィードバックする。講義内容の理解度確認のために簡単な説明文書の提出を求める。 单元ごとに、重要事項や理解不足の事項等についてのフォローを行い、関連知識の確実な習得を目指す。</p>								
	<p>この授業では、「情報」についてさまざまな観点から学んでいく。 最初は、経済学における情報のとらえ方とその事例を自ら考えることで理論というものの優位性と限界を学ぶ。 二つめは、医療分野における情報の活用について学ぶ。 三つめは、ネット検索やソーシャル・メディアに係る技術的な話題から情報を学ぶ。 最後に、情報を視覚的に表現することについて学ぶ。</p> <p>以下の各回の授業内容を示すが、状況に応じて調整を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>【ガイダンス】</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【経済学における情報の考え方】 ・情報の非対称性とは何かについて ・情報の持つ意味と社会での事例を考える</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	【ガイダンス】	2	【経済学における情報の考え方】 ・情報の非対称性とは何かについて ・情報の持つ意味と社会での事例を考える
回	内容								
1	【ガイダンス】								
2	【経済学における情報の考え方】 ・情報の非対称性とは何かについて ・情報の持つ意味と社会での事例を考える								

授業内容	3	【リスクをどう捉えるかー確率と情報】 ・リスクの評価と情報の価値	
	4	【人は合理的に情報に反応するのか】 ・人間の合理性の限界 ・非合理的行動を合理的に説明する	
	5	【医療分野における情報の収集とデータベース構築事例紹介】	
	6	【情報技術の医療分野への応用】	
	7	【医療情報ネットワークの紹介】	
	8	【2回目～7回目の振り返り】 ・受講者へのフィードバック	
	9	【いま私たちはどんな時代にいるのか】 最近の工学技術に起きている変化を、機能重視から体験重視への変化として説明します。 この変化は、エンジニアとユーザとの関係の変化として理解できます。 具体例を挙げながら、この変化について説明します。	
	10	【Webの今】 Webの歴史を、検索の時代→ソーシャルの時代→モバイルの時代と、3つに分けて説明します。 この区分は、Web上のデータの利用方法における変化として捉えられます。 いくつかのWeb上のサービスを例として挙げながら、この変化について説明します。 そして、ソーシャルメディアがモバイルの時代への対応を迫られている現状について説明します。	
	11	【ビッグデータとは】 現在の情報技術を端的に言い表わす「ビッグデータ」というバズワードの意味を説明します。 情報技術の進化によって、世の中がますます「データ」を中心に動くようになっていきます。 主にソーシャルメディアを通して世界中で時々刻々作り出されるデータの量の膨大さが、 全く新しい情報技術を必要としていることを解説します。	
	12	【Web検索のキホン】 Web検索がどのように実現されているかについて、少し工学的な話をします。 Web検索では、ユーザがキーワードを入力すると、そのキーワードに関連するWebページが、ランク付きで表示されます。このようなシステムを実現するための技術について説明します。 そして、Web検索の時代からソーシャルメディアの時代への移行の必然性についても説明します。	
	13	【ソーシャルネットワーク分析】 Webを新たな時代へ導いたソーシャルネットワーク分析という技術について説明します。 人と人とのつながりを分析する技術として、計算機の登場以前からあったソーシャルネットワーク分析は、Web上のデータを分析する技術として約10年前に再注目されました。 この経緯を解説するとともに、具体例としてPageRankというアルゴリズムを紹介します。	
	14	【9回目～13回目の振り返り、情報の表現と可視化】 ・受講者へのフィードバック ・情報の可視化例	
	15	【まとめ】	
	16		
	キーワード	情報の価値, ソーシャル・メディア, 医療データベース, 情報の可視化	
	教科書・教材・参考書	適宜関連資料を授業で配布する。	
成績評価の方法・基準等	各回の授業で課す説明文書の提出状況, および各単元で課すレポートのできばえで評価する。 配点については授業にて示す。		

受講要件（履修条件）	全回出席を原則とする。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	専門分野に偏らず、さまざまな視点から「情報」というものを学んでください。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587024901	科目番号	05870249
授業科目名	●情報社会とコンピューティングII(情報化の役割と課題)		
編集担当教員	丹羽 量久		
授業担当教員名(科目責任者)	丹羽 量久		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丹羽 量久, 藤井 美知子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-45(call3)		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	k-niwa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	情報メディア基盤センター 2階		
担当教員TEL	095-819-2084		
担当教員オフィスアワー	木曜日 9:30~11:00		
授業の概要及び位置づけ	<p>社会で実際に運用されている情報システムがどのような役割を担っているのか、またどのような課題を持っているのかを理解する。 日々の暮らしで身近に感じることをテーマとして取り上げることにより社会との関わりを認識させ、かつ「情報分野」に詳しくなくても取り組んでいけるように配慮して授業を構成している。</p>		
授業到達目標	情報社会における情報システムの役割と仕組みについて理解し、それらを説明できる。		
授業方法(学習指導法)	<p>授業で配布するワークシートの課題にしたがって一人一人が学習を進めていく。数名ずつのグループに分かれて、個人の学習成果を共有・発展させていく。適宜、教員によるレクチャーを行い、疑問点を解決させるとともに基礎知識を補足する。 学習成果は、グループでまとめてプレゼンテーションすること、および授業を通じて学習したことを最終レポートにまとめることからなる。 調べ学習に必要な参考図書を自ら選定できるように、附属図書館を活用した検索方法を演習により習得させる。</p>		
	<p>社会で実際に構築・運用されている情報システムを取り上げて、個人による調べ学習とグループによる共同学習に繰り返し取り組むことにより、情報システムの役割と課題について深く考えていく。 次のテーマとキーワードを取り上げる予定にしているが、開講時の社会情勢を考慮して変更することがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「災害発生!その時 ITは何ができるのか?」(パーソンファインダー, ディザスターリカバリー, マッチングギフト) - 「ITで“学び”が変わる!?(電子黒板, eラーニング, オープンエデュケーション) - 「新機種 続々! スマートフォンの違いとは?」(オープンソースOS, サンドボックスモデル, ポストPC) - 「より早く より便利に ネットショッピング最新事情」(フリーロケーション, ソーシャルコマース, ジオメディア) 		

授業内容	以下に各回の授業内容を示す。ただし、受講者数や進捗状況を考慮して、適宜調整を行う予定である。	
	回	内容
	1	【ガイダンス, 情報化について考える】 授業の内容, 進め方, 評価方法等の概要を説明する。情報化概論について講義する。
	2	【情報化について考える】 情報化概論に基づいて, 情報システムの開発事例について考察する。
	3	【情報システムについて考える】 指示する課題にしたがって, 中間発表に向けて以下のことに取り組む。 ・グループ分けと担当キーワードの決定 ・各人の担当キーワードの調べ学習 ・グループ内で調査内容の共有, 発展のための討論
	4	同上
	5	同上
	6	同上
	7	・中間発表の準備
	8	・中間発表
	9	・中間発表に対する質問への対応
	10	指示する課題にしたがって, 最終発表に向けて以下のことに取り組む。 ・各人が連想キーワードを設定 ・連想キーワードの調べ学習 ・グループ内で調査内容の共有, 発展のための討論
	11	同上
	12	同上
	13	・最終発表の準備
	14	・最終発表
15	【まとめ】 この授業の総括を行う。	
16		
キーワード	情報社会, 情報システム, 業務の情報化	
教科書・教材・参考書	講義資料, ワークシート等を必要に応じて授業支援システムを通じて配布する。 (参考書)森川信夫: 社会システムと社会情報, 学文社, 2009	
成績評価の方法・基準等	ワークシート, レポート, プレゼンテーションのできばえを評価する。	
受講要件 (履修条件)	全回出席を原則とする。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	日々の暮らしで身近に感じるようなテーマを取り上げて, 「情報化」が社会にもたらす効果や課題について考えていきます。自ら調べて考える機会, 他者と協力して理解を深めたり情報を共有したりする機会をふんだんに設けますので, 積極的に取り組んでください。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587025301	科目番号	05870253
授業科目名	●情報社会とコンピューティングII (情報通信とコンピュータネットワークのしくみ)		
編集担当教員	柳生 大輔		
授業担当教員名(科目責任者)	柳生 大輔		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柳生 大輔		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-45(call3)		
対象学生 (クラス等)	情報社会とコンピューティング (教経薬水)		
担当教員Eメールアドレス	d-yagyu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	情報メディア基盤センター2F		
担当教員TEL	095-819-2220		
担当教員オフィスアワー	木曜日16:00~18:00		
授業の概要及び位置づけ	コンピュータ・ネットワークの要素技術や規格・プロトコル等を知ることにより、コンピュータシステムや構成要素がどのような仕組みで稼働しているか、また、どのような性能や信頼性のもとに稼働しているかを理解する。		
授業到達目標	各回の内容に示す項目について理解し、他人に説明できるようになることを目標とする。なお、本講義の直接の目標ではないが、ITパスポートや基本情報技術者試験のテクノロジ系科目の問題が解けるようになることを目指す。		
授業方法 (学習指導法)	講義形式での解説を中心として行う。講義中にはLMSを用いたクイズ・アンケートへの参加など、積極的な講義への参加を求める。 講義時間内に教員が示すことから・キーワードについて、自ら情報端末を用いて調べ、まとめることにより、知識の定着をめざす。		
	以下に、予定する各回の講義内容を示すが、受講者数や進捗状況・理解度により、調整・変更を行う場合がある。		
	回	内容	
	1	【ガイダンス】 ・情報の伝送, 有線通信と無線通信, 通信の歴史	
	2	【伝送の形態, 電磁波の性質】を理解する ・一対一と一対多, 通信と放送 ・全二重と半二重 ・電波の周波数と特性, 使われ方	
	3	【インタフェース, 伝送媒体とコネクタ】を理解する 家電製品やPCのインタフェースを例に ・インタフェース ・コネクタ形状, 通信速度, 接続形態, 電源供給 ・パラレル伝送とシリアル伝送	

授業内容		<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ・電話のインタフェースとコネクタ ・コンピュータのインタフェース ・パラレルインタフェース, シリアルインタフェース, ネットワークインタフェース 	
	4	【プロトコル階層】を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・プロトコルと階層, TCP/IP Webや電子メールのやりとりを例に	
	5	【ネットワークトポロジ】を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・専用回線と公衆回線 ・多重化 ・網トポロジ ・アクセス制御 	
	6	【イーサネット・ネットワークインタフェース層】を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・イーサネット, MACアドレス, ARP 	
	7	【ルーティング】を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットとLAN ・IPアドレスとポート番号 ・ブロードバンドルータとアドレス変換 ・電話のネットワーク 	
	8	【ネットワークの信頼性】を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・コネクション型とコネクションレス型 ・名前解決に見るインターネットの信頼性 ・パケットフィルタ, ファイアウォール, アプリケーションゲートウェイ 	
	9	【アプリケーションのふるまい】 電子メールやIP電話のしくみを例に <ul style="list-style-type: none"> ・どのようにデータが受け渡されるのか ・どのような機器をデータが流れるのか 	
	10	【中間まとめ】 ここまでの内容を総合的にまとめる	
	11	【誤り検出・エラー訂正】 <ul style="list-style-type: none"> ・パリティチェック, CRC, チェックディジット ・暗号化と電子署名 	
	12	【コンピュータシステムの構成】 集中処理, 分散処理, サーバ・クライアントモデル, クラスタ, クラウド	
	13	【コンピュータシステムの信頼性】 <ul style="list-style-type: none"> ・冗長化, MTBFと稼働率, 多重化システム, RAID 	
	14	【記憶の信頼性】 <ul style="list-style-type: none"> ・USBメモリや光ディスクの記憶の信頼性 ・バックアップ 	
	15	【総合まとめ】 全15回の内容を総合的にまとめる	
	16	【定期試験】	
	キーワード	情報通信、コンピュータネットワーク、信頼性	
	教科書・教材・参考書	教科書の採否については未定。資料等についてはLACSに掲載する。	
成績評価の方法・基準等	課題・レポート55%, 小テスト・定期試験30%、講義中の積極的な取組状況15%をもとに、総合的に評価する。		
受講要件（履修条件）	全回出席を原則とする。		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587025701	科目番号	05870257
授業科目名	●情報社会とコンピューティングII (情報化時代の仕事術)		
編集担当教員	古賀 掲維		
授業担当教員名(科目責任者)	古賀 掲維		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	古賀 掲維		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[ICT]第2端末室		
対象学生 (クラス等)	2年次(情報社会とコンピューティング)		
担当教員Eメールアドレス	amnesia@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	ICT基盤センター2F		
担当教員TEL	095-819-2097		
担当教員オフィスアワー	金曜日2校時(10:30~12:00)		
授業の概要及び位置づけ	この授業ではいくつかのライフハックについて演習をまじえて学び、日常生活や学習・研究の場で活用できるようになることを目標とする。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフハックについて理解する。 ・ライフハックを自らの学生生活で活用できる。 		
授業方法 (学習指導法)	授業は、講義と演習を組み合わせで行う。講義内容の理解度を確認するために、各自1台のコンピュータを使用して操作練習と課題を行う。さらに、理解を深めるためにレポート課題も課す。		
授業内容	各回の内容は以下の通り計画しているが、状況に応じ適宜変更等を行う場合がある。		
	回	内容	
	1	授業の進め方について、授業支援ツール	
	2	Life Hack	
	3	パスワードの管理方法について	
	4	クラウドストレージについて	
	5	マインドマップ	
	6	Todo	
	7	GTD(1)	
	8	GTD(2)	
	9	バージョン管理(1)	
	10	バージョン管理(2)	
11	数値演算・数式処理言語(1)		

	12	数値演算・数式処理言語(2)
	13	アウトライナー・高機能エディタ
	14	総合演習
	15	まとめ
	16	
キーワード	ライフハック, クラウド, スマートデバイス	
教科書・教材・参考書	授業支援ツール上で提供する。	
成績評価の方法・基準等	授業中課題及び小テスト：60%, 期末テストまたは課題：40%, を予定している。	
受講要件（履修条件）	※1 iOS か Android OS を搭載したスマートフォン、タブレットを保有しており、授業に持参できる学生の受講を希望する。 ※2 本授業は、1クラス当りの上限を30名程度に予定している。希望者が30名を超える場合、2クラスで授業を行う。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	自分のノートパソコンを持っている人は持参してください。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587026101	科目番号	05870261
授業科目名	●情報社会とコンピューティングII(ソフトウェアの利用技術)		
編集担当教員	丹羽 量久		
授業担当教員名(科目責任者)	丹羽 量久		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丹羽 量久, 藤井 美知子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-45(call3)		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	k-niwa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	情報メディア基盤センター 2階		
担当教員TEL	095-819-2084		
担当教員オフィスアワー	木曜日 9:30~11:00		
授業の概要及び位置づけ	長崎大学の情報端末室にインストールされているアプリケーション・ソフトウェアを利用しながらそれらの便利さと限界を認識し、コンピュータを用いてさまざまな問題を解決していくために適切なアプリケーション・ソフトウェアを選択・活用していく方法を習得する。		
授業到達目標	解決すべき問題に応じて適切なアプリケーションソフトウェアを活用できる。		
授業方法(学習指導法)	適宜関連事項の講義を行うとともに、主に長崎大学の情報端末室にインストールされているアプリケーション・ソフトウェアを使った演習を行う。		
授業内容	以下に各回の授業内容を示すが、状況に応じて適宜調整を行う予定である。		
	回	内容	
	1	【ガイダンス】 ・授業の内容, 進め方, 評価方法等の概要	
	2	【データベースソフトの利用技術】 ・データベースソフトの概要, データベース・システム, リレーション, 他 ・Microsoft Accessを用いたデータベース・システムの構築	
	3	同上	
	4	同上	
	5	同上	
	6	同上	
	7	【電子書籍オーサリングソフトの利用技術】 ・電子書籍フォーマットEPUB, HTML5とCSS, 書誌情報, 他 ・EPUB作成ツールを用いた電子書籍の作成	
	8	同上	

	9	同上
	10	同上
	11	同上
	12	【画像演習ソフトの利用技術】 ・ビットマップ画像とベクトル画像, 画像編集ソフトの概要, レイヤー, 他 ・画像編集ソフトを用いたイラストの作成(編集)
	13	【統計解析ソフトの利用技術】 ・基本統計量の計算 ・グラフを用いた統計量の解釈
	14	【総合演習】
	15	【まとめ】
16		
キーワード	アプリケーション・ソフトウェア, データベース, 電子書籍	
教科書・教材・参考書	必要に応じて電子化資料を授業支援システムを通じて配布する	
成績評価の方法・基準等	レポート課題のできばえを評価する	
受講要件(履修条件)	全回出席を原則とする。	
備考(URL)		
学生へのメッセージ	仕事を効率的かつ効果的に進めていくための一方策としてコンピュータの活用をあげることができます。いくつかのアプリケーション・ソフトウェアを利用していく過程で, データの整理法や表現法を学んでもらいます。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587026201	科目番号	05870262
授業科目名	●情報社会とコンピューティングII(モバイルウェブアプリケーション開発入門)		
編集担当教員	古賀 掲維		
授業担当教員名(科目責任者)	古賀 掲維		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	古賀 掲維		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[ICT]第2端末室		
対象学生(クラス等)	2年次(情報社会とコンピューティング)		
担当教員Eメールアドレス	amnesia@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	ICT基盤センター2F		
担当教員TEL	095-819-2097		
担当教員オフィスアワー	金曜日3校時(13:00~14:30)		
授業の概要及び位置づけ	簡単な例題の作成を通じて、スマートフォンやタブレット等のスマートデバイスで動作するモバイルウェブアプリケーションの仕組みについて理解する。HTML, CSS, Javascript などのプログラミング言語の習得を通じて、モバイルウェブアプリケーションの作成技術を学ぶ。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイルウェブアプリケーションの仕組みについて説明できる。 ・HTML, CSSを用いたウェブページを作成できる。 ・Javascriptを用いたウェブアプリケーションを作成できる。 		
授業方法(学習指導法)	授業は、講義と演習を組み合わせで行う。講義内容の理解度を確認するために、各自1台のコンピュータを使用して操作練習と課題を行う。さらに、理解を深めるためにレポート課題も課す。		
授業内容	各回の内容は以下の通り計画しているが、状況に応じ適宜変更等を行う場合がある。		
	回	内容	
	1	授業の進め方について、授業支援ツール、プログラミング環境の整備	
	2	HTML(1)	
	3	HTML(2)	
	4	CSS	
	5	JavaScript(1)	
	6	JavaScript(2)	
	7	JavaScript(3)	
	8	JavaScript(4)	
	9	JavaScript(5)	
10	jQuery(1)		

	11	jQuery(2)
	12	jQuery Mobile
	13	総合演習(1)
	14	総合演習(2)
	15	まとめ
	16	
キーワード	アルゴリズム, プログラミング	
教科書・教材・参考書	授業支援ツール上で提供	
成績評価の方法・基準等	授業中課題及び小テスト：60%, 期末試験(または課題)：40%, を予定している。	
受講要件 (履修条件)	※1 iOS か Android OS を搭載したスマートフォン、タブレットを保有しており、授業に持参できる学生の受講を希望する。 ※2 本授業は、1クラス当りの上限を30名程度に予定している。希望者が30名を超える場合、2クラスで授業を行う。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	授業中にビデオ教材を用いますので、ヘッドフォンかイヤフォンを持参してください。	

